

GCOE 国際会議出席報告書 (外国旅費用)

拠点リーダー 川合 光 殿

(ふりがな) 氏 名	つついりょう	所属・職名	指導教員名 (院生の場合)
	筒井亮	天体核・D1	中村卓史
Tel,Fax e-mail	tsutsui@tap.scphys.kyoto-u.ac.jp		
発表題名	Cosmological constraints using Yonetoku and Amati relations imply the second parameter of prompt emission		
著者名	Ryo Tsutsui, Takashi Nakamura, Daisuke Yonetoku, Toshio Murakami, Yoshiki Kodama, Keitaro Takahashi		
会議名称 ・開催期間	The Sixth Huntsville Gamma-Ray Burst Symposium 自 2008年10月20日 ~ 至 2008年10月24日		
開催地 (国、市)	USA, Huntsville		
出張期間	自 2008年10月19日 ~ 至 2008年10月25日		
国別参加者数	日本人約20人、その他約180人、合計約200人		
<p>発表内容、聴衆の反応、質疑応答、その他について簡潔に記述してください。 (口頭発表・ポスター発表の別も文中に明記すること。)</p> <p><発表の内容> 今回の発表はガンマ線バースト (GRB) について今まで知られていた経験則にもう一つパラメータを付け加えることによって、GRB を距離指標として使う際の絶対光度の決定精度、そして宇宙論パラメータの決定精度が飛躍的に向上するという内容であった。Ep-TL-Lp relation (会議の参加者の何人かは私の名前からこの関係式を Tsutsui relation と呼んでくれていた) というこの関係式は誤差 30% で明るさを決定することができ、これは超新星の明るさ決定精度 10% にはやや劣るものの渦巻銀河の Tally-Fisher relation や楕円銀河の Fundamental plane と呼ばれる関係式に匹敵する明るさの決定精度である。</p> <p><聴衆の反応> ポスター発表であったが反応は概ね良好であった。ポスターを見にきた人達何人かを捕まえて宣伝と議論を試みたものの、拙い英語でなかなか言いたいことが言えずに、英語力をつける必要性を感じた。GRB cosmology のおそらく最初の提唱者である Brad Schaefer 氏は特に今回の発表を高く評価してくれており、論文を渡すと「これが私の探していた関係式だよ！君が First author なのか？ Wonderful！！！」とたぶん言っていた。(彼の英語は早口で聞き取りにくかった。)</p> <p>しかしながら GRB 研究者の大半は GRB を宇宙論に使うことには懐疑的な立場の者が多く、特に会議を主催するような化石のような研究者にはあまり評判は良くなかったようである。</p> <p><その他> バンケットは宇宙センターで行われた。アポロ計画が中止されたために製造はされたが結局打ち上げられることはなかったというサターンロケットが室内に吊り下げられており、その下で食事を楽しんだ。ジャンボジェット機 40 台分をいうその</p>			

機体の大きさに圧倒され、昔のアメリカという国の偉大さを改めて思い知らされた。

(最近はどうだか知らないが。)

最後になりましたが今回このような貴重な機会をいただいた GCOE 研究支援委員会の皆様に深く感謝いたします。